



かながわの交通

今年の交通安全年間スローガン一般部門 A
(内閣総理大臣賞)
運転者(同乗者を含む)へ呼びかけるもの

2015年8月号

発進は チャイルドシートの笑顔見て



浜 降 祭 (茅ヶ崎市南湖：西浜海岸)



自転車はどこを走ったらいいの…？ 教えて！

自治会・企業・高齢者の集まりなどで

チリリン・スクール を一緒にやりませんか。

◎県内の交通事故発生概況(平成27年7月末現在) ◎県人口・運転免許人口

年別	区分	発生件数	死 者 数	傷 者 数
平成27年		16,548	98	19,360
平成26年		17,210	103	20,186
増 減 数		-572	-5	-556
増 減 率		-3.3	-4.9	-2.8

	総 数	男	女
県 人 口	9,118,775	4,556,022	4,562,753
免 許 人 口	5,602,438	3,231,879	2,370,559
割 合	1.6人に1人	1.4人に1人	1.9人に1人

(県人口は平成27年7月1日、免許人口は平成27年6月末現在)

発進は チャイルドシートの笑顔見て

～夏の交通事故防止運動を終えて～

緊急事態

7月11日(土)から20日(月)までの10日間、夏の交通事故防止運動を実施しました。昨年と比較して期間中の交通事故発生件数、負傷者数は減少しましたが、**死者数は増加**。特に期間中の7月19日から**4日間で6人が死亡**する交通事故が連続発生。信号見落としや速度の出し過ぎなど

運転者の「緊張感の欠如」「安全運転意識の低さ」

が交通事故を招いています。

○ 期間中の県下の交通事故発生状況(概数)

区分	発生件数(件)	死者数(人)	負傷者数(人)
本年	764	5	910
前年同期比	-22	+4	-26
増減率(%)	-2.8	+400.0	-2.8



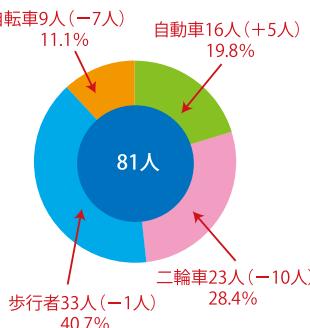
交通死亡事故(平成27年上半年)の特徴 ~交通事故死者数81人の分析~

《前年同期比 -13人 全国ワースト第4位》

- 今年度を最終年度とする「第9次神奈川県交通安全計画」の「年間の24時間の死者数を**150人以下**とする」目標達成に**“黄信号”**

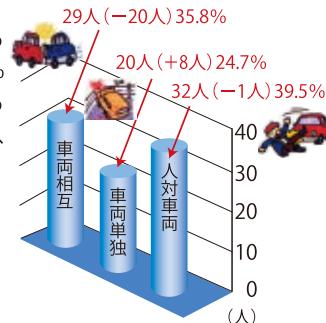
● 状態別

自動車16人(+5人)19.8%
二輪車23人(-10人)28.4%
歩行者33人(-1人)40.7%
自転車9人(-7人)11.1%
※自動車乗車中を除いていずれも減少。

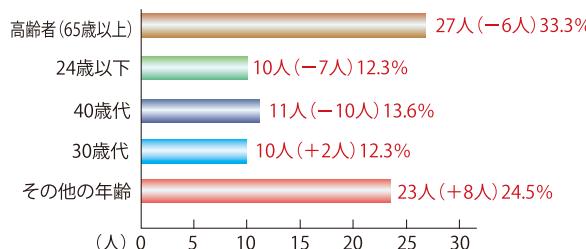


● 事故類型別

人対車両32人(-1人)39.5%
車両相互29人(-20人)35.8%
車両単独20人(+8人)24.7%
※車両相互が59%減少したが、車両単独が増加。

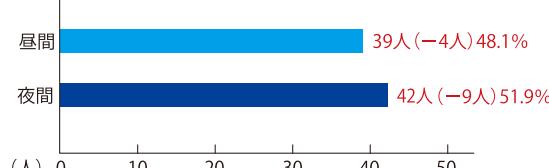


● 年齢層別



※40歳代が52%減少、高齢者は全体の約33%を占める。

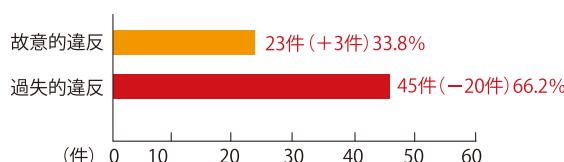
● 昼夜別



※時間帯別では午前2時から午前4時までが12人(+11人)、午後0時から午後2時までが10人(+3人)、午後8時から午後10時までが10人(-2人)と続く。

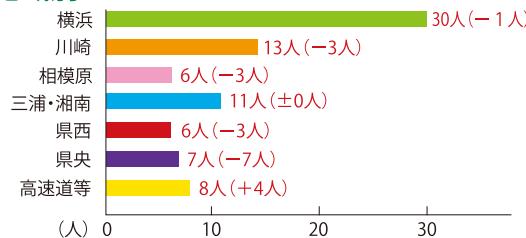
● 原因別

(原付以上の運転者が第1当事者となった68件の内訳)



※速度超過絡みが30件(-4件)、飲酒絡みが6件(+2件)

● 地域別



※高速道路等が増加したが、県央地区が大幅に減少。

注:()内は前年同期比、%は死者数(件数)に占める割合を示す。

高速道路等で交通事故多発!!

10件発生、10人が犠牲(7月末現在)

特徴～10件中、5件が二次的事故

故障や事故で停止中、追突されたり、車外に出て衝突され犠牲

事故や故障の時は〈危険が増大〉

ステップ

- 1 ハザードランプを点灯し、路肩や非常駐車帯に停車
- 2 停車後は、発煙筒や停止表示器材を置いて合図
- 3 通行車両に注意し、安全な場所に避難
- 4 非常電話などで故障、事故の状況を通報

不用意に車外に飛び出さない!
路肩や本線道路を歩かない!



第48回二輪車安全運転全国大会 神奈川県チーム団体第13位



(出場した本県チーム)

第48回二輪車安全運転全国大会が、8月1日、2日の両日、三重県鈴鹿サーキットで開催され、神奈川県チームは団体は総合13位、一般Aクラス個人では田口選手が第7位、という成績でした。

本県チーム各クラスの代表者として

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| ●一般Aクラス (400CC) 田口雅勝 | ●一般Bクラス(1100CC) 石見光隆 |
| ●高校生等クラス (50CC) 菊田宣親 | ●女性クラス (50CC) 加藤由貴子
(敬称略) |

の4人が出場しました。

1日目

正午から開会式に臨み、気温35度を超える中、午後1時30分から各クラスに分かれて競技がスタートしました。

暑さと初出場の緊張感からか、選手全員が各競技種目で減点が目立ち、団体総合第17位で1日目を終えました。その中で一般Aクラス田口選手は、減点を計10点に抑え、個人総合優勝に望みをつなぎました。



(スラローム競技中の田口選手)

2日目

朝方は曇り空でしたが、お昼前から猛暑となり熱中症も心配される中、各選手それぞれ落ち着いて競技に臨み、団体成績を第13位まで上げました。田口選手は追い上げましたが、「ブレーキング」での減点により総合第7位にとどまり、来年の雪辱を誓いました。

監督、選手の皆様お疲れ様でした。サポーター、関係者の皆様方の応援に感謝申し上げます。

●●●●● 第50回交通安全子供自転車全国大会 ●●●●●

去る8月5日(水)、第50回「交通安全子供自転車全国大会」が東京ビッグサイトで開催され、本県からは、去る7月4日の県大会で二連覇を果たした開成町立開成小学校(選手=菅野真央さん:6年、菊池菜央さん:6年、佐藤華穂さん:6年、外池明莉さん:6年)が出場しました。

例年通り、開会式に先行して午前9時から「学科テスト」が行われ、実技会場に場所を移動して開会式を行い、午前11時から実技(安全・技能走行)テストが行われました。

開成小学校では、昨年は初出場で不慣れだったこともありましたので、今年は昨年の経験をもとに練習を重ね、実技では各選手が競技種目をノーミスでクリアできるくらいに上達し、大会に臨みました。

しかし、選手から学科テストは「難しかった」との感想があったほか、技能走行も全国大会独特の雰囲気もあり、各選手十分な実力を発揮することができず、団体、個人とも、入賞は果たせませんでした。



(菊池選手のジグザグ走行)

平成28年使用交通安全年間スローガン（標語）募集

- 主 催 (一財)全日本交通安全協会、毎日新聞社
- 後 援 内閣府、警察庁等
- 締め切り 平成27年9月30日（消印有効）
- 募集部門

1 一般部門A 運転者(同乗者を含む)へ呼びかけるもの

- ◇応募資格：一般及び学生（小・中学生、高校生も応募可）
- ◇募集内容 〈重点テーマ〉

- ①交通ルールの遵守と運転マナーの向上（高齢者、子ども、障害者等への思いやり運転など）
- ②飲酒運転の根絶
- ③全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用
- ④夕暮れ時の早め点灯の促進



2 一般部門B 歩行者・自転車利用者へ呼びかけるもの

- ◇応募資格：一般及び学生（小・中学生、高校生も応募可）
- ◇募集内容 〈重点テーマ〉

- ①高齢者の交通安全（正しい横断など）
- ②自転車の安全利用の推進（自転車安全利用五則の徹底など）
- ③夕暮れ時、夜間の交通事故防止（反射材用品の活用など）

3 こども部門 こども（中学生以下）へ交通安全を呼びかけるもの

- ◇応募資格：中学生以下

- ◇募集内容 〈重点テーマ〉 こども（中学生以下）へ交通安全を呼びかけるもの

※自作、未発表作品に限る。過去の入賞作や他で公表・使用されたスローガンと同一ないし酷似と判断された場合、審査対象とならない。応募点数の制限なし。

●応募・問い合わせ先 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

毎日新聞社事業本部「交通安全年間スローガン」係 (TEL03-3212-0190 平日10:00~18:00)

第46回交通安全子供自転車神奈川県大会を終えて

開成町民サービス部環境防災課 小田 優



閉会式、校名が呼ばれた瞬間の選手達の笑顔が忘れられません。

私はこの4月に現在の所属に異動してまいりました。実は私自身も小学5年生の時に足柄上地区大会に出場した経験がありますが、当時を思い返すと現在の選手達のレベルの高さが伺えます。

選手達は県大会優勝を目指し今年の1月から週1回の練習を行い、継続的に取り

組んできました。県大会2週間前からは毎日2時間の練習を実施してきましたが、「喜怒哀楽」、選手達は様々な表情を見せ練習に励んでいました。

大会当日の朝、選手達はいつものようにおどけていて、とてもリラックスしている印象を受けましたが、大会会場に着くと一変、顔が強張り緊張しているのが伝わってきました。

筆記を終えて、実技に入ると選手達の顔付きが変わり、堂々たる技能を披露してくれました。あまりの本番の強さに指導者一同驚かされました。技能を披露した選手達は口を揃えて「緊張した」と言っていましたがそんな様子は感じさせない素晴らしい演技でした。

そして閉会式、校名が呼ばれた瞬間の選手達の笑顔が忘れられません。思わず目頭が熱くなりました。選手達は決して才能があるわけではありません。全員が人一倍の努力をしてきたからこそ、今回の優勝に繋がったのだと思います。

また今回の優勝は指導者の方々の指導、支えによるものもあります。開成町交通指導隊、松田警察署をはじめ、学校関係者の方々には深く御礼申し上げます。



交通安全標語コンクール《相模原交通安全協会》

相模原交通安全協会では、夏休み中のこどもの交通事故を防止するため、市内中央区の光が丘、陽光台、青葉、並木の4つの小学校（生徒1,400名）が参加して行う交通安全標語コンクールに、賞品を提供しています。

コンクールは、30年前から夏休みの前の小学校の終業式に合わせて行っており、去る7月17日光が丘公民館で行われた表彰式には井上会長が審査員としても参加し、最優秀賞1人、優秀賞4人に賞品を授与するとともに、最優秀標語に選ばれた松原みなみさんの通う陽光台小学校にその標語の入った横断幕を寄贈しました。



《県民功労者表彰～ 受賞おめでとうございます》

神奈川交通安全協会会長 須藤 照彦 氏

去る7月6日、神奈川県庁本庁舎3階大会議場において、「神奈川交通安全協会会長等として、多年にわたり交通安全思想の普及啓発活動を積極的に推進するなど、地域における交通事故防止に優れた成果を上げた功労」により、公共の福祉に貢献し、その業績が特に優れた方々を広く顕彰することを目的とした県の最高表彰の一つである本表彰を受賞しました。



新任事務長紹介 ～ よろしくお願ひします～

横浜水上交通安全協会 山本 泰三 事務長

【抱負】

本年6月から横浜水上交通安全協会の事務長に就任しました山本と申します。よろしくお願ひします。

本年2月より事務局員として前事務長に同行し、各種キャンペーンや研修等に出させていただきましたが、いざ事務長となりますと職の重さを感じ、改めて安全意識高揚の大切さを思い知らされる次第でございます。



担当エリアは陸地が3%ですが、大桟橋やワールドポーターズ、赤レンガ倉庫など観光スポットが集中しており、また世界トライアスロン横浜大会が開催されるなど、1年中観光客が絶えず多くの人で賑わっています。

訪れる人が安心して観光が楽しめるよう、微力ではございますが交通安全活動に取り組んでまいります。

【プロフィール】

横浜市西区出身。現在は横須賀市浦賀在住。妻と一人息子の3人家族です。

息子は整体師として戸塚の病院に勤務、妻は鎌倉でエステサロンを経営しています。息子は勤務先のそばで一人暮らし。妻は帰りが遅く、土日は仕事のため土日祝日は私が主婦をしてます……。

そんな私の癒やしは3匹の猫と音楽(CDは2千枚はあるかと、…ほとんどロックです。)です。学生時代はロックバンドでギターを弾き、登山にもはまっていました。北アルプスや南アルプスの山々が大好きで夏山シーズンはよく出かけました。

協会の仕事に従事していますが、車の運転はちょっと苦手かも……。

平成26年度交通安全ファミリー作文コンクール入賞作品の紹介

《中学生の部：佳作（内閣府政策統括官賞）》

横浜市立日限山中学校 2年 石野 秀一

(敬称略：学年は受賞当時)

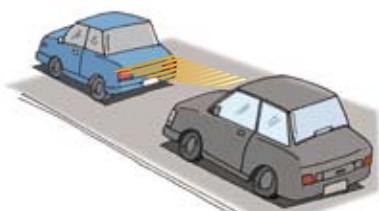
祖父が車を買い換えた。最近よく耳にする「ぶつからない車」だそうだ。少し運転に不安が出てきたからだという。確かに最近の車の安全性は感動的だ。自分の家の車は25年前の車だが安全装備はシートベルトぐらいしか見当たらない。しかし現在売られている車は、シートベルトはもちろんのこと、運転席や助手席のエアバッグ、さらには車によってはサイドカーテンエアバッグまでもが標準装備になっている。これらの安全装備の中でも現在の究極系といえるのが「ぶつからない車」だろう。これは車が前方の障害物を赤外線やレーダー、カメラなどで感知して自動的にブレーキを踏んでくれる機能だ。つまり最良の安全性を求めるなら最新の車を選ぶべきだといっても過言ではないだろう。

安全性が進化しているのは何も車だけではない。日々道路環境も進化している。安全性の追求はそもそも道路の改善から始まった。かつて交通事故による死者数が日清戦争での日本側の戦死者数、17,282人という数を上回る勢いで増加し、「交通戦争」と呼ばれた時代があった。激増する車の数に対して道路環境の整備が追いついていなかったのだ。信号やガードレール、歩道、横断歩道もない中、歩行者が右往左往していた。今でいう高速道路に人が紛れ込んでいる状態だと思えば、どれだけ危険かが分かるだろう。その後、交通事故から人の命を守るために、様々な改善がなされた。一例を挙げれば昭和35年当時にわざか2,536基しかなかった信号機は、現在204,713基(平成24年)にまで増えている。他にもカーブミラーを設置したり、交差点の構造を見直して死角をなくすようにした。例えば自動車メーカーのホンダの本社ビルは、交差点に面しているが見通しを良くするため、敷地面積より小さくなっているという。「ぶつからない車」を買い求めた祖父の代のような人達のこういった努力によって、昭和45年に最悪の死者数、16,765人だったのが平成25年現在、4,373人となり、三分の一以下まで減っている。

しかし、これらの安全装備や道路環境をもってしても、目をつぶって歩いていては意味がない。そんなことはしないと人は言うかもしれない。だが、カーブミラーも、見通しの良い交差点も、スマホやゲーム機に夢中になっていたり、友達と話していたり、よそ見をしていては、目をつぶっているのと同じではないだろうか。

今ある安全な車、安全な街はたった一人で作りあげられたものではない。でもそれを無にするのは、一人でもたやすい。

私達は誰しもその一人になる可能性があるという自覚をもって、交通安全とは何か、改めて見つめ直す必要があるのでないだろうか。



交通事故の悲劇に学ぶ(28)

●「運転者の責任」

私は大学生でした。その日は学校が終わった後、友人の居る学生寮へ遊びに行きました。途中、友人二人と夜の10時頃から遊びに行こうという事になり、私の車に友人3人を乗せて走り出しました。車内では色々な話で盛り上がり、気持ちは凄く舞い上がっていたように思います。

私の運転する車は、片側2車線の広い道路に入り、時速100キロ近くまでスピードを出していましたが、シートベルトは着用していませんでした。私は舞い上がった気持ちの中、自分勝手に友人にスリルを味あわせようと思い、ハンドルを左右に振り、車体を揺らそうとしました。しかし、2・3回ハンドルを切ったところで、車はバランスを失い、「危ないっ」と思った時には、一瞬にして車体は滑り出し、ガードレールを突き破り、道の脇にある土手に逆様の状態で落ちて行きました。それは本当に一瞬の出来事で、事故を起こした時の私は、「大変なことをしました。大変なことをしました。」という気持ちでした。

私は気が動転していましたが、車外に放り出されている友人を見つけると、すぐに我に返り、友人の救護をしたり、何度も友人の名前を呼びました。しかし、返答はなく意識不明の重体でした。私は、今でもあの時の友人の苦しそうな顔が忘れられません。

「どうか助かってほしい。」と入院中、何度も何度も願い続けましたが、退院の日に両親から友人の1人が亡くなつた事を聞かされた時、涙が止まらなくなりました。その日から、私は何度も、なぜ自分が死ななかつたのだろうと考えるようになりました。

両親は、そんな私を見かねてか、「あなただけでも生きていて本当に良かった、これから友達のことを想って一緒に償つていこう。」という言葉をかけてくれました。この言葉はすごく私の支えとなり、一生かけて償つていこうという気持ちにさせてくれました。

その後、裁判で自動車運転過失致死という罪名で禁錮2年の実刑判決を受け、現在、市原刑務所という施設で反省の日々を送っています。私は本当に取り返



しのつかない事をしました。私の軽率で身勝手な行動によって、未来ある尊い命を奪ってしまったのです。この事件により、ご遺族の方はもちろんの事、この事件に関わった全ての人々の人生を変えてしまったことは決して許される問題ではありません。交通事故といえども、1人の尊い命を奪つた事には変わりなく、殺人と一緒なのです。

今、この瞬間にどこかで交通事故が起きています。車社会である今、決して他人事ではありません。私の周りにも平気で交通規則を違反する人がいますが、それはただ、偶然事故が起きなかつただけであり、今考えるととても恐ろしいと思います。私は、その事に気付けず、このように悲惨な事故を起こし、尊い命を奪つてしまいました。

けれど、まだここに気付き、事故を防げる人は沢山いると思います。私はこれからも本件についてしっかりと向き合い、ご遺族の方に謝罪し続け、償いますが、このような悲惨な事故を少しでも減らせるように、自分のできる活動を行っていきます。

償い続けたところで、友人の尊い命は戻ってきませんが、私は死ぬまで償います。

～(一財)東京都交通安全協会

「贋いの日々(第49集)」から～

賛助会員の紹介

このコーナーでは、(公財)神奈川県交通安全協会の交通安全活動に賛同し、賛助会員としてご協力をいただいている企業等を順次ご紹介しています。(敬称略)

- 日産自動車(株)本牧専用埠頭 横浜市中区錦町
- JX日鉱日石エネルギー(株)根岸製油所環境安全グループ 横浜市磯子区鷲町
- トヨタカローラ横浜(株) 横浜市中区長者町

地区交通安全協会連合会総会の開催

- 6/11 相模地区交通安全協会連合会(海老名)
- 6/21 湘南地区交通安全協会連合会(箱根)

総会では、各地区交通安全協会連合会の平成26年度の事業報告、27年度の事業計画、予算、役員の改選などが審議され、了承されました。相模地区のみ会長が交代し、新会長には大和綾瀬の古郡会長が選出され、今期で退任する役員に感謝状と記念品が渡されました。また来賓として出席した県協会の西村専務理事から、北海道における一家4人の交通死亡事故や相模原における高校生の自転車通学中の死亡事故など現下の厳しい交通情勢、さらには先般施行された改正道交法「自転車運転者講習制度」に触れた挨拶がありました。



(相模地区的総会)

黄色でも ぼくの気もちは 赤しある

この人

116



藤沢北交通安全協会
会長
安西 晃さん
あんざい のほる



藤沢北交通安全協会は、昭和59年4月1日、藤沢警察署管内が2分割され、その北部を管轄する藤沢北警察署発足と同時に設立されました。

藤沢市北部では、古くから住民の足となっている小田急江ノ島線に、平成11年、相鉄いずみ野線と横浜市営地下鉄が相次いで湘南台まで延伸して乗り入れ、湘南台駅を中心に商店街、住宅街を形成し、躍進を続けています。また、基幹道路である国道467号や主要県道が縦横に走り、自動車交通量も増加の一途を辿っています。

今回はこの藤沢市北部を管轄する藤沢北交通安全協会の会長に本年5月に就任された安西晃さんをご紹介します。

安西会長は藤沢市長後に生まれ育ち、湘南台にて平成24年まで酒店を営んでおりましたが、現在はご子息

が経営する接骨院を陰ながら支える傍ら、趣味のグランゴルフで健康維持に努めています。

平成元年に交通安全協会理事、常任理事、副会長を歴任され、本年5月に第5代会長に推举されました。平成19年には長年の交通安全労が認められ、交通安全賞賞賛緑十字銀章を受賞されているほか、消防分団長、湘南台地区交通安全対策協議会会長などを歴任され数々の賞を受賞されています。

会長は、このよ

うな重大事故の増加に心を痛めており、今後は交通安全協会をあげて事故防止に努力し、警察の指導をいただきながらも全面的に協力を惜しまず、「安全で快適な車社会の実現を目指し、交通安全意識の普及高揚等により管内での交通死亡事故ゼロを究極の目標として、今後も交通安全活動を推進していくたい。」と話しております。

今後とも健康に留意され、

藤沢市の交通安全に活躍していただきたいと願っております。

（取材協力：藤沢北交通安全協会）

ここにちは 「伊勢原交通安全協会」です

署中お見舞い申し上げます。

丹沢連峰大山の麓“フルーツの里”国道246号沿いの小さな協会です。免許会員の加入率が減少する昨今、職員5人、チームワークもよく1日3名体制で“明るく笑顔の接客”をモットーに証紙販売と免許更新等のお手伝いをさせて頂いております。

交通安全協会の諸活動は伊勢原警察署の指導のもと飯塚会長をはじめ60名の交通指導員と地域交通安全活動推進委員やその他交通団体の皆さんとともに、各季交通事故防止運動や交通安全キャンペーン、毎月1日・15日の交通安全日における通学路の街頭交通指導、幼稚園、小・中学校、高校の児童・生徒や高齢運転者の交通安全教室、その他恒例の「道灌ま

つり」や大山登山マラソン大会、神奈川駅伝大会の交通対策など、“まちを愛する気持ち”を心ひとつにボランティア精神で日々活躍しています。

市内では一昨年、昨年も2名、高齢者の交通死亡事故が発生しました。今年は7月15日現在「死亡事故0」で推移してますが、交通課から毎月提供される市内の居住地区別発生件数や年齢・路線・時間帯別等を分析した資料を配布して「窓口で一言」。また更新時講習は安全運転意識を再確認する絶好の機会であることから資料提供により「優良講習でワンポイント」アドバイスをするなど、市内の交通事故防止をテーマに声かけ運動を推進しています。新会長体制から2年目、皆様に協会運営を正しくご理解いただけるようにと職員一体となって真剣に取り組んでいます。

今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。（板橋 記）



（夏！「みどりのカーテン」ゴーヤと胡瓜）



（3月「大山登山マラソン」ゴール地点）

地区交通安全協会の活動紹介



青葉

夏の交通事故防止運動の一環として、東急たまプラザ駅前の飲食店を訪問し、ハンドルキー・パー卓上幟旗などを配布しながら飲酒運転根絶を働きかけました。



栄

JR大船駅前において、警察署・区交対協と連携し、チラシやグッズを通行人に配布しながら夏休み中のこども事故防止など交通安全を呼びかけました。



小田原

白バイを先頭に「安全運転実施中」の横断幕を掲げ、署長が人力車で後に続く車辺でパレードを行いました。



相模原

地域住民600人が参加し、光が丘小学校で自転車教室を開催し、人文字「じこ」識を高めました。



津久井

遊園地前において、トウモロコシ600本を用意し、「津久井コーンちゃん」を新登場させ「夏の交通事故防止運動」を呼びかけました。

金沢

夏の交通事故防止運動期間中の7月13日、京急能見見台駅前において、飲酒運転根絶や自転車の危険運転など交通事故防止を呼びかけました。



戸塚

JR戸塚駅前自由通路において、交通指導員40名をおいて、主体とした関係者により、グッズを配布しながら夏の交通事故防止運動キヤンペークを展開しました。



平塚市

大型スーパー店舗前に置いて、白バイの体験乗車コーナーを設け、平塚市キヤンペークガール「織り姫」がチラシなどを配布しながら夏の交通事故防止運動キヤンペークを呼びかけました。



伊勢原

小田急伊勢原駅北口に市長ほか警察署員等関係者が集合し、南北にも分かれ、チラシなどを配布しながら夏の交通事故防止運動を呼びかけました。



相模原北

橋本駅北口ペデストリアンデッキにおいて、交通関係団体が総出で警察と連携し、うわなど配布しながら夏の交通事故防止運動キヤンペークを実施しました。



インフォメーション

- グッドライダーミーティング 9月5日
- 地区交通安全協会会长会議 9月10日
- 二輪車安全運転講習会 9月12日
- 秋の全国交通安全運動 9月21日(月)～30日(水)までの10日間
- 交通事故死ゼロを目指す日 9月30日